DOCOMO TEAM DANDELION RACING
Team Release

決勝レポート
2012/11/4　Rd-7 鈴鹿サーキット

天候：うす曇り　　気温：17℃　　出走台数：18 台

観客数：3 日（土）12,000 人　4 日（日）14,000 人

2012 年フォーミュラニッポン、7 戦にわたる激闘もいよいよ最終戦。
快晴のなか迎えた鈴鹿サーキットは、思惑交錯する熱い展開となった。

午前中に行われた 20 周の決勝レース 1。
2 番グリッドからスタートの伊沢選手は、得意のスタートを決めて首位で 1 コーナーへ。
塚越選手もいい動きだしであったが、僅かに足りず 3 番手キープで、オープニングラップを周回した。その後の伊沢選手は、唯一の 42 秒台を連発し後続を引き離す。ファステストラップも記録し、今季 2 度目、菅生に続いて堂々の連勝優勝。
塚越選手は 2 位を狙ってプッシュするが、20 周のスプリントレースではチャンスを得ず、手堅い走りで、3 位チェッカーを受けた。
これで、伊沢選手、塚越選手はともに 40 ポイントの同点首位に躍り出る。

決勝レース 2 は、タイヤ交換義務付のある 28 周のレース。
気温はぐっと下がり、路面コンディションの変化が気になる。
まずまずのスタートを決めた塚越選手は 2 位キープで、伊沢選手はホイルスピンした上に位置取りも悪く、10 番手まで順位を落としてしまう。ポジションダウンした伊沢選手を、チームは即座にピットに呼びオープニングラップでタイヤ交換。クリアな中のアタックラップで順位を上げる戦略をとった。
塚越選手ら上位陣はピットを先延ばししてのトップ争いながらも、前後ライバルのラップタイムをモニターしながらの走行。伊沢選手同様の戦略をとった中嶋選手のラップタイムが速いため、8 周目でピットインの判断。中嶋選手の背後でコースに戻った。
塚越選手は、中嶋選手を抜き優勝することがチャンピオンへの条件。しかし、塚越選手のペースは上がらず、差はじりじりと開いてしまう。さらには、デュバル選手にシケインでパスされ、3 番手にダウン。
結果、塚越選手 3 位、伊沢選手は 6 位までポジション挽回でレース 2 を終えた。

レース 1 後 同点ポイントリーダーとなった伊沢選手と塚越選手であったが、レース 2 の結果により、塚越選手はシリーズ 2 位　伊沢選手シリーズ 3 位　で 2012 年全日本選手権フォーミュラニッポンを終えた。
また、DOCOMO TEAM DANDELION RACING は、チーム初となる チームチャンピオンに輝いた。

40：伊沢選手　決勝レース１　優勝、決勝レース２　６位
2012 シリーズランキング３位　HONDA 勢２位

レース１は完ぺきなレースでした。スタートもよく、速いペースも維持でき、今季２回目の優勝を、菅生に続き連勝でかざることが出来ました。
レース２ではスタートに失敗したため、早々にタイヤ交換する戦略をとりましたが、ラップペースが上がらず、タイヤにも厳しい展開となり、最後まで争ったチャンピオンタイトルは獲得できませんでした。
シリーズ３位で終えることとなりましたが、チームチャンピオン獲得でき、チーム一丸となって目指した結果に貢献できたことで、また一つ次の段階へ成長できたと思います。
来季はドライバータイトルとチームタイトル、ダブル獲得を目標とし、今この瞬間から、チーム一丸となって準備を始めます。
熱い応援をいただいた ファン、スポンサーの皆様、最高の環境を準備してくれたチームに感謝しています。

41：塚越選手　決勝レース１　３位、決勝レース２　３位
2012 シリーズランキング２位　HONDA 勢首位

レース１もレース２も、決して悪くないレースでしたが、タイトルを狙うには力足りませんでした。ポールポジションもとれず、優勝も出来ず、その結果ドライバータイトルを逃してしまうこととなり、出来ることはやりきったけれど、悔しい最終戦となりました。
ただ、もう一つの目標であった、チームチャンピオンを獲得できたこと、自分が貢献できたこと がただただ嬉しく、ゆえに一層ドライバータイトルを添えたかった 悔しい思いでいっぱいです。
今シーズンは、初優勝し、チャンピオン争いを展開できた、非常にハイレベルなシーズンとなりました。
ただ目指すものはもっと上。今年得た経験をもとに、この通過点を経て、先への力と替えてゆきます。
１年間常に全力で臨んできました。来季も皆様の声援をお願いします。